# 2023（令和5）年度　第3回　サロン・ド・大学コンソーシアム大阪
# 現場で職員育成するために
# ー教務の実践知の蓄積を促すケースメソッドの可能性ー

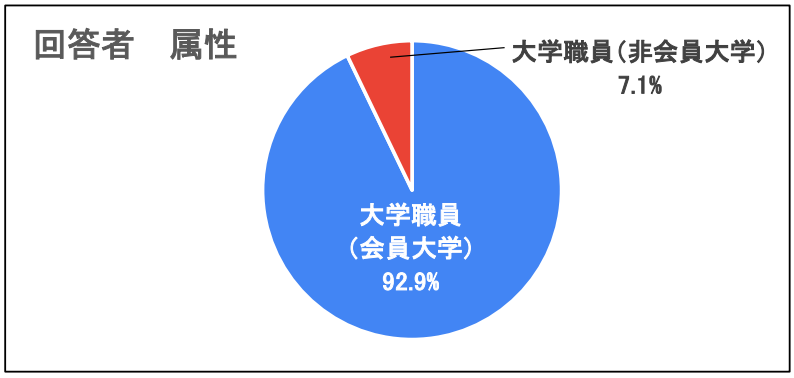
## 参加者アンケート集計結果

回答者数14名/参加者数17名　回収率82.4%

**1.回答者について**

**（1）属性**

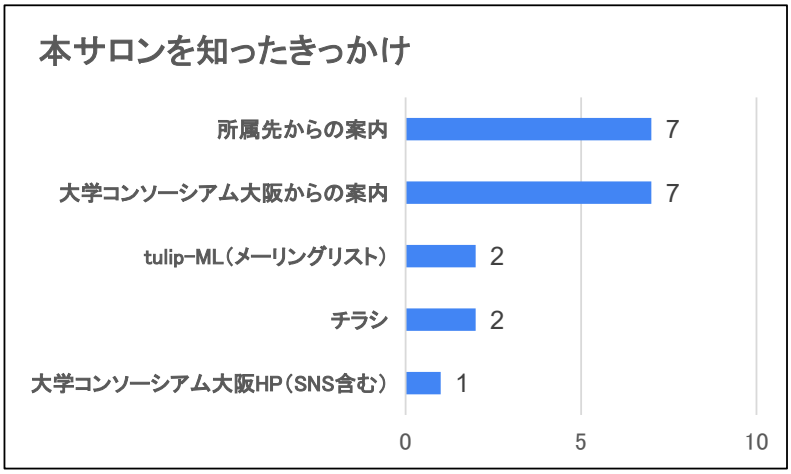
| | |
|---|---|
| 大学職員（会員大学） | 13 |
| 大学職員（非会員大学） | 1 |
| | 14 |




**2.本サロン全般について**

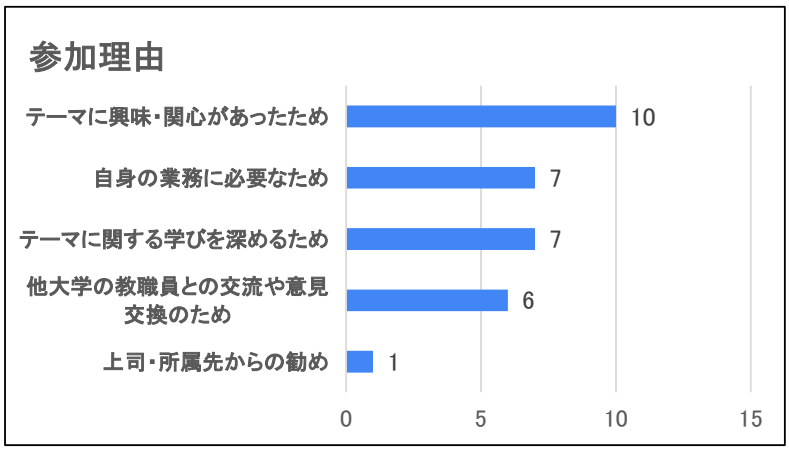
**（1）本サロンを知ったきっかけ（複数回答可）**

| | |
|---|---|
| 大学コンソーシアム大阪HP（SNS含む） | 1 |
| 大学コンソーシアム大阪からの案内 | 7 |
| チラシ | 2 |
| tulip-ML（メーリングリスト） | 2 |
| 所属先からの案内 | 7 |



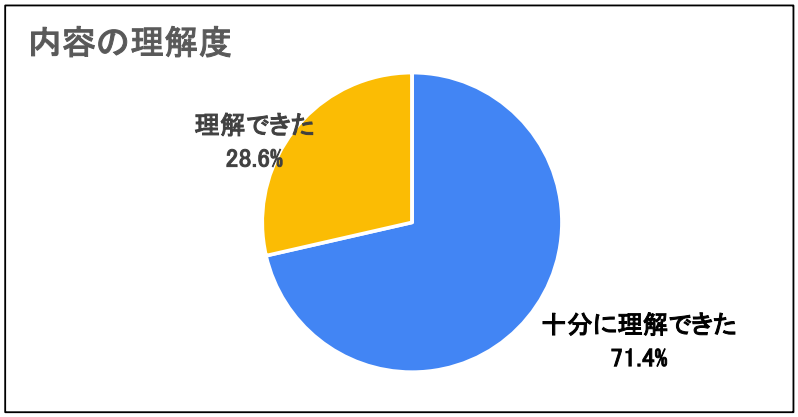

**（2）参加理由（複数回答可）**

| | |
|---|---|
| 上司・所属先からの勧め | 1 |
| テーマに興味・関心があったため | 10 |
| テーマに関する学びを深めるため | 7 |
| 自身の業務に必要なため | 7 |
| 他大学の教職員との交流や意見交換のため | 6 |



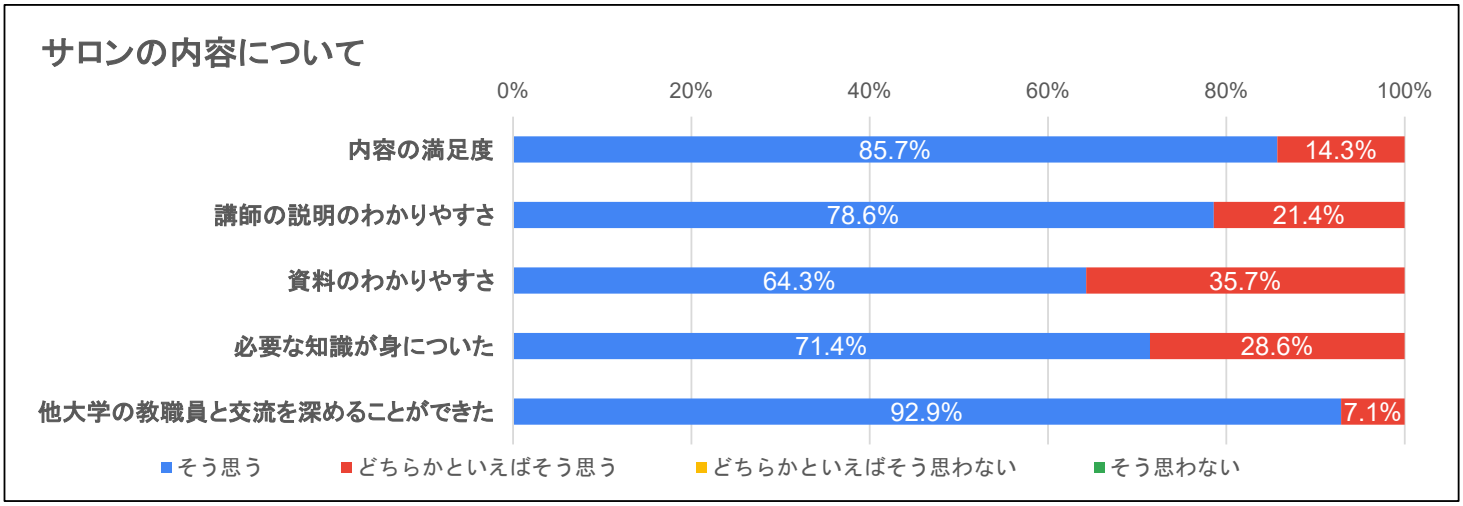
**（3）内容の理解度**

| | |
|---|---|
| 十分に理解できた | 10 |
| 理解できた | 4 |
| ある程度理解できた | 0 |
| あまり理解できなかった | 0 |
| | 14 |




**（4）サロンの内容について**

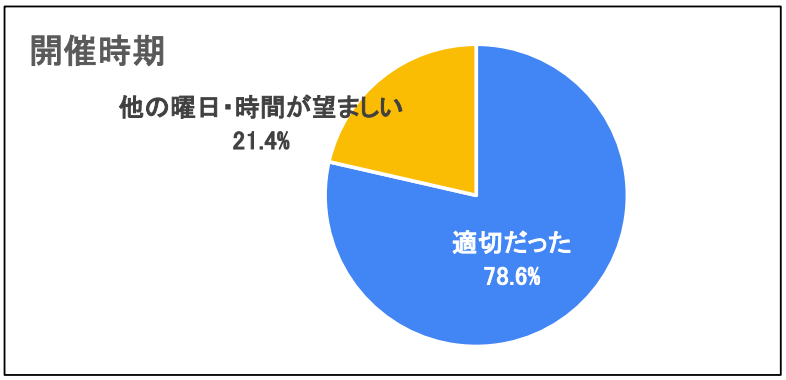
| | そう思う | どちらかといえば そう思う | どちらかといえば そう思わない | そう思わない |
|---|---|---|---|---|
| 内容について満足しているか | 12 | 2 | 0 | 0 |
| 講師の説明はわかりやすかったか | 11 | 3 | 0 | 0 |
| 提示された資料はわかりやすかったか | 9 | 5 | 0 | 0 |
| 必要な知識を身につけることができたか | 10 | 4 | 0 | 0 |
| 他大学の教職員と交流を深めることができたか | 13 | 1 | 0 | 0 |




**（5）開催時期・時間について**

| | |
|---|---|
| 適切だった | 11 |
| 他の曜日・時間が望ましい | 3 |
| | 14 |

希望する開催時期・時間
・2月と3月は繁忙期のため、5月から8月がありがたい
・閑散期（5月以降）
・終業後の時間帯でなくてもよい



**（6）本サロンに参加して良かったと思われる点**

| |
|---|
| ・色々な大学の方々と交流や意見交換、親睦をはかることができた点（他3件） |
| ・他大学でも共通の悩みを抱えていることを知れた点 |
| ・今後の研修計画に役立てることができる点 |
| ・やや強引にでもグループ替えがあった点 |
| ・飲み物があったので研修の中でひと休みできた点 |
| ・グループ分けの役職や所属のバランスが絶妙だった点 |
| ・ケースメソッドについて、分かりやすくご講演いただき、自大学での研修実施に向けたヒントをいただけた。 |
| ・ケースメソッドのグループワークで方法（休学させる/させない）は違っても学生に望む結果は同じだったということが分かったり、自分とは違った考え方から新たな学びを得ることができたのでケースメソッドの意義を体感できた。 |
| ・講師のわかりやすい説明、業務知識の増加、他大学職員との交流と3拍子揃ったすばらしい研修だった。 |
| ・有名な講師による講義が受講でき、大変有意義な時間となった。 |

**（7）本サロンをより良いものとするための提案**

| |
|---|
| ・プロジェクターの映像を映すスクリーンがあれば、より見やすかったかと思う。 |
| ・難しいかもしれないが、いっそ夕食を食べながら話題提供者が発表し、意見交換するなどをしてみるのもおもしろそうだ。 |
| ・できれば6月～10月のあたりで開催していただきたい。 |

**（8）上記以外の感想や意見**

| |
|---|
| ・とてもよい研修を受講でき、感謝している。 |
| ・90分はあっという間だった。参加されていた方々が熱心で感化された。少ない人員で時間通りに研修を運営されていて、参考になった。本学では同じ部署でも上司と部下が違う建屋やキャンパスで勤務する場合が多々あり、必然的にメールや電話、zoom、teamsなどのICTツールを使うコミュニケーションが多くなり、意思疎通に齟齬が出ることもある。そんな中で対面に劣らないコミュニケーションの質を保つにはどうすればいいか悩むところだ。 |
| ・ちょうど後輩教育の方法について悩んでいたため今回の研修に参加した。他の参加者の方は役職者の方も多く、最初は参加するには早すぎたかもしれないと恐縮していたが、部署内の職員育成ではなく後輩教育と範囲を小さくして自分のケースで考えると得るものがとても多く、この研修が自分にとってのOff-JT研修になっていた。また、現在起きている引継ぎのトラブルが部署内で「暗黙知」が多く「形式知」が足りていないことが原因の一つだということも判明した。長年勤めてきた上司の「実践知」をより多く引き出し、吸収するためにもケースメソッドを活用できると学んだので、職員育成の立場からではなく、これから学んでいく立場としてケースメソッドを考えていきたい。 |

**（9）今後、本サロンで取り上げてほしいテーマ**

| |
|---|
| ・プロジェクト型業務におけるマネジメント |
| ・設置基準の概要理解について |
| ・部下や上司とのより良いコミュニケーション方法、適切な報連相について |
| ・ケースを参加者がグループワークで考える研修などはどうか |